新常態で一歩ずつ ～神奈川県～

神奈川県特集

2020年2月に横浜港に寄港したダイヤモンド・プリンセス号から入港して以来、全国に先駆けて新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動の両立に取り組んできた神奈川県。一方、二度の緊急事態宣言とそれに伴う国民生活や経済への影響をもたらしている、今後の新型コロナとの向き合い方、県内経済再生の取り組みなどについて、神奈川県の黒岩祐治知事に聞いた。



黒岩 祐治 知事 に聞く

DX・5Gで新たなステージへ



「事業継続」「需要喚起」「成長支援」を柱に

大きな転換点

―2020年からの新型コロナ対応の振り返りをお願いします。

―今後の新型コロナ対応で、特に力を入れたいことは。

―新型コロナ感染症の収束後を見据えた神奈川の将来像は。

―神奈川県の産業振興の方向性は。

感染防止・経済両立 闘いは続く

ベンチャー支援 2拠点

―ベンチャー支援の2拠点について。

―ロボット実証支援について。

―神奈川県の産業振興に向けた意気込みを。

転換期で活躍の場広がる

前進する県内企業 ①

菊水電子工業

ちょうど1年前の2020年3月、世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルス感染のパンデミック（世界的大流行）を宣言し、グローバルな人流や物流が滞っている状況下で、国内でも緊急事態宣言が発出されるなど、社会経済活動が停止した時期がありました。その影響はリーマン・ショックを上回るとされ、多くの企業にとって厳しい状況であったことは間違いありません。しかし、逆境の中でも、新たな成長に向けた取り組みを進めた企業があります。菊水電子工業（川崎市）もその一つです。

菊水電子工業は、電子負荷装置や直流安定化電源装置などの開発・製造・販売を手がける計測機器メーカーです。1953年の創業以来、電子負荷装置の分野で国内トップシェアを誇ります。

電子負荷装置は、電源装置の性能を評価するために欠かせない装置です。電源装置に負荷をかけ、電圧や電流、温度などを測定することで、電源装置が設計通りに動作するかを確認します。

同社の電子負荷装置は、電圧や電流、温度などを測定することで、電源装置が設計通りに動作するかを確認します。

電子化・電動化の領域広がる



EVの性能評価に欠かせない菊水電子工業の試験システム

EVほか航空機の電源変動試験にも対応

菊水電子は2020年12月、半導体製造装置の展示会「SEMICON Japan 2020」が主催する新技術・新製品コンテスト「第8回機械振興賞」に入賞した、車載機器の試験に用いる電源変動試験システムを出展した。

同社の電子負荷装置は、バイオエタノール燃料電池車（FCV）やEV（電気自動車）、航空機の電源システムなどの試験に使われている。今回出展したシステムは、EVの電源変動試験に対応したもの。

EVの電源変動試験では、走行中の加速や減速、回生ブレーキなどの状況を再現するために、電源装置の出力を変動させる必要がある。

航空機の電源変動試験では、離陸や着陸、巡航などの状況を再現するために、電源装置の出力を変動させる必要がある。

菊水電子は、2020年12月、半導体製造装置の展示会「SEMICON Japan 2020」が主催する新技術・新製品コンテスト「第8回機械振興賞」に入賞した、車載機器の試験に用いる電源変動試験システムを出展した。

同社の電子負荷装置は、バイオエタノール燃料電池車（FCV）やEV（電気自動車）、航空機の電源システムなどの試験に使われている。今回出展したシステムは、EVの電源変動試験に対応したもの。

EVの電源変動試験では、走行中の加速や減速、回生ブレーキなどの状況を再現するために、電源装置の出力を変動させる必要がある。

航空機の電源変動試験では、離陸や着陸、巡航などの状況を再現するために、電源装置の出力を変動させる必要がある。